

平成19年11月15日

浜田市議会議長 牛尾 昭 様

参加議員代表 西田 清久 

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成19年11月5日 ～ 11月7日

2. 視察又は訪問先

愛媛県喜多郡 内子（うちこ）町

高知県高岡郡 梶原（ゆすはら）町

3. 参加議員氏名 6 名

高 原 好 人  ・ 原 田 義 則 

鎌 原 ヤシエ  ・ 島 本 鎌 利 

澁 谷 幹 雄  ・ 西 田 清 久 

4. 調査経費 一人当たり 約 30,000 円

5. 調査研究活動の概要

別 紙 の と お り

「調査概要」

愛媛県喜多郡 内子町

- (1) “内子フレッシュパークからり”の取り組みについて
 - (2) 町並み、村並み保存の取り組みについて
 - (3) 内子ツーリズムの取り組みについて
- 宿泊：「石畳の宿」（石畳を思う会の方たちと交流）

高知県高岡郡 梶原町

- (1) 風力発電の取り組みについて
 - (2) 地域あげての体験交流受け入れについて
 - (3) 『グリーンツーリズムゆすはら』の取り組みについて
- 宿泊：農家民宿「いちちょうの樹」

～はじめに～

平成18年11月21日から11月23日の3日間、浜田市を主会場に「全国グリーン・ツーリズムネットワークしまね 石見大会」が盛大に開催された。この大会を契機に、今年度、グリーン・ツーリズム推進事業が予算化された。

現在、浜田市ツーリズム協議会を設立するための準備会が開かれている。

本市は、緑豊かな農山村や漁村があり、都市と地方とを結ぶ食文化、伝統、神楽、温泉など人口交流を増やす資源に恵まれた地域である。

しかしながら、本市における産業振興、農業振興、観光振興、さらには定住対策等の促進には、まだ課題、問題が山積している。

そうした中、「ツーリズム」は、地域振興を図るための大切な様々な要素を含んでいる。

今回、ツーリズムの先進地2町を視察し、調査研究を行いました。

「視察事項」

1. 愛媛県喜多郡 内子町

2005（平成17）年の1月1日、内子町、五十崎町、小田町の3町が合併した。

人口は、約2万人、3人に1人は65歳以上。

全体の面積の約8割が山林である。

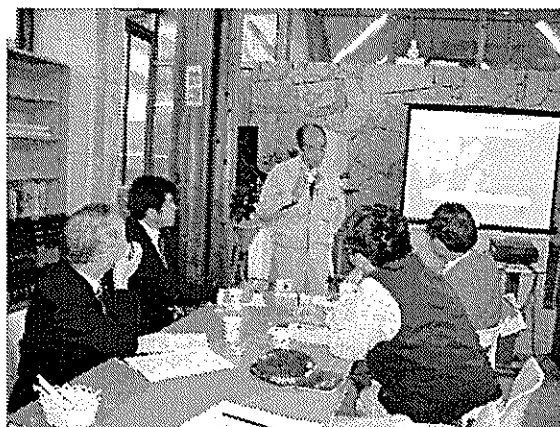
(1) “内子フレッシュパークからり”の取り組みについて

“からり”とは、果樂里（果物を楽しむ里）、花樂里（花を楽しむ里）、加樂里（加工することを楽しむ里）など、カラリとした爽やかな出会いを楽しむという願いを込めて名付けられている。

実験施設「内の子市場」の開設にあわせて、平成6年7月に「からり直売所出荷者運営協議会」が誕生した。ここでは、「特産物直売所」、「パン工房、薫製工房、シャーベット工房・アグリ加工場などの農産物加工施設」、「レストランからり・あぐり亭などの飲食施設」の3施設が有機的な連携を図りながら、集客力を高め、内子町農業の活性化が実践されている。

これらの施設は「(株) 内子フレッシュパークからり」が指定管理者として施設運用し、経営を行っている。資本金は7,000万円で、会社の出資割合が内子町50%、残りを多くの町民が出資している第三セクターである。

年間の利用者は60万人を超え、地域活性化のモデルとして、全国的な注目をあびている。



内子フレッシュパークにおいて

(2) 町並み、村並み保存の取り組みについて

旧内子町は、江戸から大正時代にかけて「木蠟」の産地であった。最盛期は明治30年代で、その繁栄ぶりを伝える商家や豪商の建物が取り壊されずに残っている。

昭和57年に国の保存地区の指定を受け、取り壊し寸前までいていた芝居小屋「内子座」も修理復元された。

内子の町並み保存運動は、地域資源や文化の見直し。「内子らしい景観の創出」へと広がりを見せ、この運動は農村部に広げ、農山村景観や暮らし、文化の保存形成を図りながら、美しい農山村を創っていこうという運動が展開されている。

この町並保存運動+村並保存運動+山並保存運動+交流農業が内子ツーリズムとなっている。

内子町の全地域が町づくりの発信となり、地域おこしの運動を展開しておられる人たちに出会い、小さな町であるが人々が輝いてみえた。

(3) 内子ツーリズムの取り組みについて

宿泊：「石畳の宿」（石畳を思う会の方たちと交流）

村並保存運動の具体例として、農家住宅であった廃屋を再生し、民宿「石畳の宿」として活用し、地域の助成が担い手になり、農村の食文化を活かしながらグリーン・ツーリズムの実験を石畳地区で展開している。

「石畳の宿」は、1994年に建設され、建設の裏には、1987年に結成された石畳地区の地域づくり団体の地域おこし運動があると言う。

2004年、旧内子町で「うちこツーリズム協会」が設立され、組織や団体のネットワーク形成や共通の情報発信、新たな担い手の発掘などに取り組んでいる。

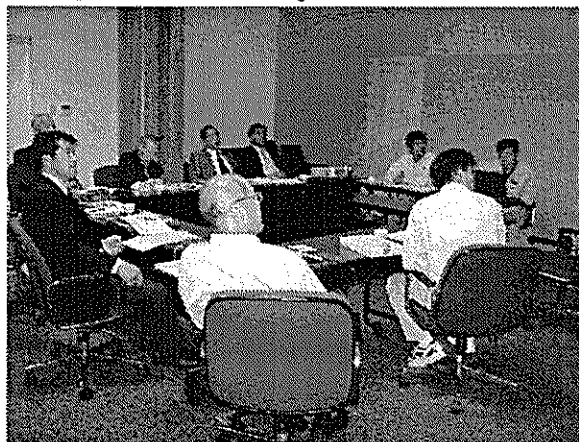
特に地域住民が地域の魅力を再発見し、行政の支援を受けながら、もてなしの心で来訪者を受け入れる仕組みをつくれれば、農村部であっても、人が訪れてくるという流れができたわけである。

2. 高知県高岡郡 梶原町

“雲の上の町” 梶原町は、愛媛県と接する県境の町で、日本最後の清流四万十川最大の支流、梶原川をはじめ多くの川が流れる町である。

人口は約4,200人。

平成の合併は行われていない。



梶原町役場会議室において

(1) 風力発電の取り組みについて

平成11年12月に標高1,300mの四国カルストにデンマーク製の風車600kwを2基、町営で建設する。建設費は合わせて約4億4,500万円である。

町内58%、1,060戸の電力を賄い、クリーンエネルギーである風力発電の導入によって、ますます関心の高まっている地球温暖化防止の一助とするとともに、地球環境問題への町民、観光客等の意識の高揚を図り、この事業を通じ、過疎化が進む中山間地域の振興発展に寄与できると推進しておられる。

(2) 地域あげての体験交流受け入れについて

(3) 『グリーンツーリズムゆすはら』の取り組みについて

農家民宿「いちょうの樹」

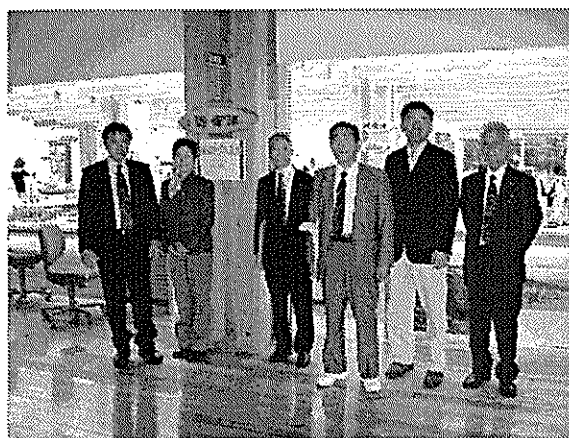
自然体験施設、太郎川公園は、年間を通して多くの人々が訪れ、緑あふれる景色の中に設置された「きつつき学習館」を中心にフィールドアスレチックやジャンボ滑り台など、魅力あふれる野外施設が多く設置されている。

懐かしい昔の田舎が体験できる茶堂や草葺き民家、水車小屋などの歴史的建造物がある。

公園内には、「雲の上のホテル」、「雲の上の温泉」などの宿泊、飲食、娯楽施設も整い、県内外を問わず、多くの観光客でにぎわっている。

農家民宿「いちょうの樹」は、定員12人で家族の皆さんの温かいもてなしは、また、訪れてみたい気分にする。

来訪者の希望があれば、わらじづくりを教えてもらい、採りたての野菜やきのこ、川魚をつかったの田舎料理は絶品である。



梶原町役場内において

～まとめ～

浜田市のグリーン・ツーリズム事業は、まだスタートしたばかりである。内子町、栲原町のように「農山村で農林業体験や地域の自然、文化に触れ、地域の人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」に住民参加のツーリズム施設の環境整備が求められる。

また、住民の皆さんにツーリズムに関心を持ってもらい、そして参画し、地域あげて取り組む必要があると考える。

今後、浜田市産業振興ビジョンの中に、ツーリズムを盛り込み積極的に推進を図るべきと感じたところである。

栲原町風力発電所は町営で建設され、地球温暖化抑止と啓発に寄与を図り、環境の里づくりに取り組んでおられる。

浜田市においても風力発電が民間により施工される予定であるが、地球温暖化防止に一翼を担うよう期待したいものである。

また、栲原町は、太陽光発電にも力を入れておられ、町内の各種公共施設に積極的に太陽光発電施設を設置するとともに、住民に対しても新エネルギー施設（住宅太陽）設置に1キロワット20万円の補助（4キロワット80万円を限度）を行い、新エネルギーの普及・啓発に努めておられる。

本市でも住宅太陽光設置に何らかの補助制度を導入し、地球温暖化防止啓発を図る必要があると感じた。

～おわりに～

少子、高齢化による地域活力の低下が進み、「限界集落」と呼ばれる地域が浜田市においても増えている。

元気で活力ある地域の自立に向けた取り組みが求められています。そのためには、人材育成にも力を入れる必要がある。

今回、参加した議員は、観光としての農山村を支えている人々に出会い、田舎のよさを再確認したところである。

視察で得た見聞知識を生かし、新しい地域づくりに住民の先導役として住民の皆さんの期待に応えていきたいものである。

以上、視察研修報告とする。